



## 幸せを取り戻したヨブ

主はその後のヨブを以前にも増して祝福された。

(ヨブ記 42 章 12 節)

私たちは2年半かけてヨブ記を読んでまいりましたが、はからずも今日が最終回となりました。ヨブの想像を絶する苦しみの日々がついに終わり、繁栄と幸せな日々が与えられたのです。ただその部分で、皆さんはヨブの幸せを喜ぶ一方、なにか腑に落ちない思いにもなったかもしれません。

そもそもヨブが苦しみにあったのは、サタンが「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか」と言ったためでした。多くの方は、ただ自分の利益のために信仰しますが、ヨブはそれとは違います。いささか問題はありましたが、信仰に利益が伴わなくても、いや、それどころか耐え難い苦しみに遭わされてもなお信仰を守りぬいたのです。だからヨブの闘いは、人はたとえ利益がなくても神を敬うことが出来る、との立派な証明になったのです。それなのに、ヨブが最後に、誰もが羨むような幸福を授かるとしたら、ヨブ記のテーマはいったいどこに行ってしまったのか、ということにもなりかねません。

神様はヨブに命じて、正しくはあったかもしれないけども真実と愛に欠けていたヨブの3人の友人のために祈らせました。ヨブがその務めを果たし、友人たちとの和解が成立した時、神はヨブを元の境遇に戻し、さらに財産を二倍にされました。神はヨブを以前にも増して祝福されたので、ヨブは羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになりました。すべて苦しみを受ける前の二倍です。ヨブはまた七人の息子と三人の娘をもうけました。ただ失った10人の子どものことを忘れることが出来たのでしょうか。ある人がこういう説明をしました。「以前の七男三女はすでに天に行っており、今神は再び七男三女を与えたのです。天に十人、

2016年8月発行

地に十人、倍でないことがありますか」。ヨブはその後140年の長きを生きて、死にました。

皆さんはヨブの最後の年月のことをどうご覧になったでしょう。

ヨブは人生の最後に幸せを授かりました。どうして幸せでないはずがあらましよう。しかし、その中身について、人は往々にして誤解してしまうのです。ヨブが最後に幸せになったのは、神様がこの世の幸福をすべて下さったからだ。…ただ、ヨブ自身は決してそのような幸福を望んだのではありません。ヨブは塵と灰の中で神様の前に悔い改めました。その時、病気はまだ治ってはいませんでした。そのままで十分に幸せになったのです。

ならば、神様はなぜヨブを以前にもまさる大富豪となさったのでしょうか。私は、これは神の国の豊かさを示しているのだと考えます。信仰者は往々にしてこの世の富を信仰の敵のように見なしますが、信仰に固く立っている限り、富がその人をむしろむしむことはありません。それどころか神様は無尽蔵の富を持っておられ、これを人間に分け与えようとしておられるのです。このことは、人間の、利益を求めがちな信仰とは別のところで起こることです。

ここにいる皆さんが、生きている間に大富豪になるという恵みが与えられるかどうかはわかりません。…ただ、たとえ物質的には貧しくとも、すでに神様から頂く豊かさの中に生きているのです。そして人生をまっとうし、死んで天に集められた時、皆さんは神様から頂く无尽蔵の富の中にいることになるでしょう。ヨブの最後の満ち足りた日々は、そのことを先取りして見せてくれたのです。

人類の罪のために死んだイエス・キリストは、罪と死に打ち勝ち復活なさいました。そして天に昇られ、終わりの日の祝宴に信仰者を招くべく、いま準備をされていることと思えます。

(2016年7月24日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊